

---

# チカラミンX

莓大福

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

チカラミンX

### 【Nコード】

N2926K

### 【作者名】

莓大福

### 【あらすじ】

老人はある日、強力な栄養ドリンクを  
買って飲んでしまう。たちまちマツチヨな体に・・・  
莓大福の自信作です。是非ご愛読お願い致します。

**（前書き）**

やっぱり誰だって若くありたいと思うもの

## チカラミンX

「おーいトメ吉さん！あんたの番じゃぞー！」

公園で老人達がゲートボールを楽しんでいる。  
段段<sup>だんだん</sup>トメ吉86歳は重い腰をあげた。

「えっこらしよい・・・」

トメ吉はスティックを振り下ろした。  
連れ添いに先立たれ早10年、寂しさを紛らわす為に  
始めたゲートボールもずいぶん上達した。

トメ吉は最近恋をしている。同じ老人会の梅田トキ  
90歳に一目惚れしていた。トキもまた10年前に  
連れ添いに先立たれている。

老人会とは、月に一度、同じ町内の65歳以上  
の老人達が公民館に集まって愚痴をこぼしながら  
お酒を飲む会だ。梅田トキとはそこで出会った。

トメ吉は自分の番を終えるとゆっくりベンチに  
戻っていった。

（今日こそはトキさんに告白しようかの・・・）  
段段<sup>だんだん</sup>トメ吉86歳。青春まっさかりであった。

ゲートボールを終えてトメ吉はいつものドラッグストアに養命酒を買いに立ち寄った。

店内を見渡すと珍しい飲料水が目にとまった。

「老人向け栄養ドリンクチカラミンX。

これ1本で元気100倍。筋肉増強剤入り。

一本1000円」

トメ吉はチカラミンXを一本だけ手に取るとレジにそれを持っていった。

さっそく自宅に帰るなりトメ吉はチカラミンXを飲み干した。

（まあこんなもん気休めじゃ。どうせ効き目なんぞないだろうが）

飲み干したチカラミンXの空き瓶をゴミ箱にほうり投げた。とその時・・・

（ん?! なんじゃ。なんじゃ!?! 体中に熱い血が流れる感じがするぞ）

みるみるうちにトメ吉の体中に血管が膨張し浮き上がる。そして同時に筋肉がメキメキと腫れ上がり、着ているシャツがビリビリと裂けて破けていった。

あつというまにトメ吉はボディビルダーの様な体になっていた。

（おおお！？すごいぞ。なんなんじゃこれは、こんなもののドラッグストアで売っていいのか！）

トメ吉は今なら誰にも負けない気がした。

試しに箆笥を持ち上げようとすると二メートルもある箆笥が軽々と持ちあがった。

トメ吉は思った。

（これじゃこれじゃこの力じゃ。この力を使ってトキさんに告白するのじゃ！）

トメ吉はパンパンになった体に無理やりジャケットを着こみ梅田トキの家に向かった。

ドンドン！

「トキさんやあ！ちょっと用があるんじゃ！開けてくれんかのー！」

トメ吉はドアを叩いた。

ドアは開きそこに変わり果てた梅田トキの姿があった。

トメ吉同様にトキの体もマッチョになっていた。

「なんじゃ？トメ吉もあれを飲んだのかい？」

トメ吉は驚いたような表情で答えた。

「チカラミンXじゃろ？それ飲んだらこんな体になったんじゃ！トキさんも飲んでるとは、まさかじゃったよ！どうじゃ？マッチョな者同士これから

ボーリングでも行かんか？」

トキは頬を赤らめ、少しもじしながら軽く肯いた。女の顔になっていた。

それからしばらくしてボーリング場にトメ吉とトキの二人の姿があつた。

ボーリング場の空気は凍り付いていた。

ガラガラガラー！ー！ー！

次々とピンが吹っ飛びストライクを決めるふたり。一番重たい球を物凄いスピードで投げる。

周囲の客は驚き中には携帯の写メで撮っている者もいた。

「トキさんや！ボーリングなんて30年ぶりじゃ！やっぱり面白いの！！せつかくじゃ！バッティングセンターも行ってみやせんか？？」

トキはガンガンストライクを決めながら、頬を赤らめ軽く肯いた。女の顔になっていた。

それからしばらくしてバッティングセンターにトメ吉とトキの二人の姿があつた。

バッティングセンターの空気は凍り付いていた。

カコー！ー！ー！ー！ー！ー！

軽快にバットに当たる球の音が鳴り響いていた。時速150キロ、店で一番早いマシンから出る球を打ちまくる二人。

周囲の客は驚き中には携帯の写メで撮っている者もいた。

トキさんや！バツティングセンターなんて30年ぶりじゃ！やっぱり面白いの！！せつかくじゃ！ラブホテルでも行ってみやせんか？？」

トキはガンガン150キロの球を打ちながら、頬を赤らめ軽く肯いた。すっかり女の顔になっていた。

それからしばらくしてラブホテルにトメ吉とトキの二人の姿があつた。

ラブホテルの空気は凍り付いていた。

：倫理上の問題につき以下省略・・・by 毒大福

そうしてふたりは夢のような幸せな時間を過ごした。

：しばらくして月に一度の老人会の日。

トメ吉はその日老人会に出席していた。

するとそこにいた老人すべてマツチヨになっていた。

チカラミンXの評判は口コミで全員に伝わっていたのだった。

皆お互いの肉体美を見せ合っている。

そしてテーブルの上には今日はお酒ではなく

チカラミンXが置かれている。部屋の隅にいた一人の老人がチカラミンXを一本手にして飲み干した。満足げな表情を浮かべ飲み終えた空き瓶をジロジロ見つめた。



するとたちまちその老人の顔は青ざめていった。  
瓶にはこう書かれていた。

：使用上の注意事項

服用に関しては一生涯につき一本まで。副作用で  
飲むと個人差はありますが寿命が10年程縮まります。  
死ぬ直前にお飲みになってください。最後に夢  
のような日々を過ごす事が出来ます。

使用・用量は守ってお使い下さい。ピンポーン

（後書き）

今日も読んでいただいております。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2926k/>

---

チカラミンX

2010年10月21日23時47分発行